

大学名

佐賀大学(医学部分子生命科学講座)

第68号 特集テーマ「医学・生命科学系の先端研究」

表題

アトピー性皮膚炎における痒みに対する創薬開発事業

### 特色ある取り組み

アトピー性皮膚炎は、20歳以下の若年者の約10%が罹患している疾患です。痒みが最も重要な症状となり、痒みは、日常生活に支障を生じるだけでなく、皮膚のバリア破壊を引き起こし、アトピー性皮膚炎を悪化させます。

痒みは、アトピー性皮膚炎の病変部位で産生されたメディエーターが知覚神経を活性化し、その刺激が脳に伝達されて、認識されます。

私達は、自発的に痒みによる激しい引っ掻き行動を示すFADSマウスを確立しました。このマウスを用いて起痒物質を探索した結果、ペリオスチンというタンパク質がその原因の一つであることを明らかにしました。さらに、ペリオスチンの受容体であるインテグリンの阻害剤であるCP4715が、FADSマウスにおける痒みを改善することを見出しました。このことから、CP4715がアトピー性皮膚炎の痒みに対する治療薬となりうることを明らかにしました。

### 期待できる成果

現在、AMED事業、佐賀県のTUGUMIプロジェクト、製薬企業との共同研究により、CP4715を含めたインテグリン阻害剤の中から最適な化合物を、アトピー性皮膚炎の痒みに対する治療薬として開発を進めています。治療薬を開発できれば、多くのアトピー性皮膚炎の患者さんにとって、福音となるでしょう。

### 参考URL

<https://www.biomol.med.saga-u.ac.jp/medbiochem/atopicdermatitis/>

